



# 水学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111  
ホームページ <https://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

## 校長あいさつ

### 校長 下川 伸也



昨年（2022年）4月より水産大学校校長の重責を担うこととなり、2年目を迎えております。微力ながら引き続き水産大学校の教育・研究活動を充実するべく努力する所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、大学校の実績につきまして、令和4年度の卒業・

修了生の就職率は97.0%、そのうち水産業及び関連産業への就職率は77.6%となりました。このことは、就職先となる企業の皆様からの多大なご支援とともに、合同企業説明会の開催（Web形式で126社参加）、学科長・担任教員等による学生就職支援のための企業訪問などの地道な広報活動が功を奏したのではと考えています。また、入学試験につきましては、本科で約3.7倍の高い倍率を維持でき、新学期を迎え本科189名、専攻科50名、水産学研究科11名と合計で250名の新生を受け入れることができました。これまで、コロナ禍により中断を余儀なくされていた教職員による高校訪問を再開し、オープンキャンパス等のイベントも3年ぶりに対面で開催するなどの成果が徐々に現れてきたのではないかと思います。

この3年半、新型コロナウイルス感染対策に翻弄させられる中、今年度より少しずつ緩和の兆しが見られるとともに5月には感染法上の分類が「5類」に移行しました。コロナ禍以前の日常を取り戻しつつあるものの、一方では、感染「第9波」の到来も指摘され、足早に緩和することには懸念の声もありました。これまで、オンライン等による授業方法の確立に傾注してきましたが、分類が緩和されてからは、学内での感染症対策を再度見直し、安全性と実効性を考慮して段階を追って緩和を進めることとしています。具体例として、大学校構内の建物入り口での検温・消毒や教室等の換気などの基本的な対策は今後も継続しますが、原則として対面形式での授業に戻し、講義、実験・実習や卒論指導、乗船実習も含めた教育活動全般で実施することとしてきています。その他にも、クラブ活動における制限を撤廃し、学生自治会の活動や大学祭、地域のボランティア活動、地域住民の方々や近隣の漁業者や水産業界の皆様に向けた公開講座など、以前には

当たり前に行われていた行事を徐々に再開していき、“活気ある水大”に戻れるように努力する所存です。

また、水産大学校での最近の主なトピックスとして、「スマート水産業」への対応、「社会人教育の拡充」等が挙げられます。水産政策の柱である「水産業の成長産業化」のため、本校でもICT等の先端技術を活用した“スマート水産業”の推進を目指しています。このため、“スマート水産業”に対応する授業を充実し、シラバスの見直しを進めています。これまで、“スマート水産業”に関連する授業を6科目開講していましたが、令和4年度には15科目に拡充しました。加えて、本校教職員が漁業者や山口県と連携して開発した生産現場と産地市場を双方向で繋ぐアプリシステムをICTの活用の一例として授業の中で扱っています。“社会人教育の拡充”としましては、漁業従事者の確保に貢献するため、水産庁補助事業により漁船漁業に就業予定の水産高校生卒業生に対して四級海技士教育を実施するとともに五級海技士教育のコースも新設し、各海技士資格の取得を支援し、漁業従事者の育成に協力しました。

さらに、本校は国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成業務を担う部門として、機構業務の一翼を担っています。今年度は、第5期中長期計画の期間5ヶ年のうちの3年目となり、本計画中では水産に関する学理・技術の教授とこれらに関連する研究を実施することを目標に掲げています。具体的には、①水産資源の適切な管理と持続的利用に寄与する人材育成、②水産生産技術の開発や社会実装に寄与する人材育成、③水産に関する広範な知識を有する水産技術者・海技士の育成の3つを柱に据えて進め、水産業を担う中核的な人材育成を推進することとして取り組んでいます。

以上、昨今のトピックスを述べてきましたが、水産大学校は、これまで通り、本科・専攻科及び水産学研究科の教育・研究活動が基盤であることに変わりはありません。引き続き、“水大生諸君がこの地で学び、水産学の基礎を身につけ、巣立っていく。”文字通りの母校として誇れるような学園づくりに邁進する所存です。保護者の皆様はじめ関係各位には、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。校長の挨拶といたします。

## 最近の話題

### 自己紹介

水産流通経営学科 講師 田村 剛



今年度4月に水産流通経営学科に着任いたしました田村剛（たむらごう）と申します。少々自己紹介をさせていただきますと、大阪の緑豊かな環境で育ちました。このことが、農学研究科で学ぶ一つの動機となっています。

大学学部と修士課程では経済学、これをベースに、博士後期課程では農学（主に農業経済学）を学び研究も行ってきました。大学院修了後、非常勤講師として、情報処理演習や外国書講読、経営学、簿記、コンピュータ会計、マーケティングなど、多様な科目を担当する形で大学教育に携わってきました。

私の専門分野は、グリーン・ツーリズム（都会から農村地域への人の往来を増やし、いかに消費を増やすかの仕組みを考える）ですが、グリーン・ツーリズムを経済学的視点から見ますと、需要（農村地域への来訪者）と供給（来訪者を受け入れる地域住民）の関係により成り立っています。これらの二つの視点からアンケートやヒアリング調査などを実施し、その結果を分析する形でこれまで研究を行ってきました。

主な担当授業は、水産経営学、水産経営分析論、水産物消費マーケティング論です。このうち、特にマーケティングに関しましては、経済学をベースとしているため、これまでの学びと関連づけて、今後、教育・研究に従事していきたいと考えています。

まず教育面では、最近の学生たちを見ていますと、コロナ禍の影響もあってか、社会人基礎力の「前に踏み出す力」（アピール力）が弱いように感じます。就職活動やその後の仕事においてもアピール力は常に必要とされるため、今から対策を考えて実践した方が良いと考えます。マーケティングでは相手の立場で物事を考えることが重要視されています。学生たちにはこのことを、学習を通じて理解してもらい、その上で自分をいかにアピールしていくかについて一緒に考えていけたらと思います。

研究面では、新天地の山口県で人脈をつくることはもちろんのことですが、高齢化や担い手不足により相対的に活力が低下している水産業界において、グリーン・ツーリズム、農産物流通やマーケティングの知識を活かし、水産物の生産・販売と消費の観点から漁村地域の活性化方策について研究していく予定です。

今後、いろんな場面で至らぬ点があるかと思いま

すが、温かい目で見守っていただき、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 着任のご挨拶

海洋生産管理学科 助教 杉野 亮介

本年度4月より海洋生産管理学科（海洋生産運航学講座）助教に着任しました杉野亮介と申します。

私は平成29年3月に本校専攻科船舶運航課程を修了し、水産庁へ入庁しました。水産庁では漁業取締船「東光丸」で三等航海士、「白萩丸」で二等航海士として勤務してきました。漁業取締船では、主に日本周辺海域において、漁業者がルールを守って操業していけるよう巡視や警戒、また、必要な場合には検査を行い、漁業秩序維持のための業務を担当してきました。

取締業務では、日本や周辺諸国の多種多様な漁法、漁船を見る機会が多く、日本周辺海域の操業実態を知ることができました。また、取締船ならではの機器や装備を駆使して、業務遂行することにやり甲斐を感じていました。一方で、航海中は24時間いつ違反船が現れ、事件対応となるかと緊張状態が続いたり、取締りを効果的に行うためにも漁船に接近して行く場面が多く、操船に神経を使ったりと、大変で苦労したこともありました。

その他にも「白萩丸」乗船時には代船員装に携わり、乗組員と協力し、新しい船を一から造り上げていくという大変貴重な経験ができました。

学校では航海学の分野で、航海士として必要不可欠なノウハウの教育に携わります。海技士教育の中で、私の船での実務経験をいかして、将来船乗りを目指す学生に、まず航海士として勤務していくには何が必要か、大切かを伝えていければと思っています。

着任して日が浅く、これまでの船舶職と教育職の業務内容の違いにまだまだ戸惑いを感じています。特に、自身が頭で理解できていることを、相手に分かりやすく伝えること、多数の学生と対面で実習を行うことなど、これまでに経験のないようなことばかりで、人に教えるということの難しさについても日々感じさせられています。

ただ、学生時代にお世話になった先生方がいる中で、その一員となって仕事をできる環境に、とても感謝しておりますし、まだ色々と慣れないことの多い私にとって、とても心強く思っております。まずは学科として、一大イベントである夏の海技実習で、自分の船乗り経験とパワーを発揮して、先生方と協力し実習に尽力していきたいと思っております。



海が正門前に広がり、水産を学ぶにも環境の整っている本校で、ここならではの部活動や講義など、学生の皆様が思う存分キャンパスライフを楽しんで頂けるよう、私自身も精一杯頑張ってお参ります。

## 着任のご挨拶

海洋機械工学科 助教 有吉将希

令和5年4月1日付で海洋機械工学科の助教に着任した有吉将希と申します。私は、福岡県嘉麻市出身で、海洋機械工学科を卒業後、専攻科船舶機関課程を修了し、日鉄物流(株)という鉄鋼品の物流を行う会社に新卒で入社し、設備故障対策や業務効率化に関する業務を行って来ました。その後、転職を経て、令和5年3月まで防衛省で勤務しておりました。



防衛省においては、民間船舶を用いて部隊輸送を行う民間海上力活用事業のモニタリングや、諸外国軍隊との物品役務相互提供協定に関する国会対応等を行って来ました。イメージが付きにくいと思いますが、自衛隊のロジスティクスに関する業務だと考えていただければと思います。

ところで、皆さんは、このロジスティクスという言葉聞いたことがあるでしょうか。一般には「物流」、軍事用語では「兵站」と訳されますが、日本人はこれを軽視する傾向にあるというのは有名な話です。先の大戦におけるインパール作戦やガ島での戦いが顕著な例でしょうか。

私は仕事をする上で、ロジスティクスを広義に解釈しており、主業務そのものではないが、それを進めて行く上で不可欠な業務を全てロジスティクスだと考えています(例:情報システム、財務、営業、広報、人事、合意形成、法令規則)。このような解釈の下、私たちは、未だにロジスティクスを軽視しているように思わざるをえません。物流やバックオフィスには目を向けない「とにかく良い物を作れば売れる」思想が代表例でしょうか。再び日本が世界をリードするには、抜本的な意識改革が必要だと感じます。

ここで、学生の皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんは、技術職や船員になる方がほとんどだと思いますが、広義のロジスティクスを意識した視野の広い人材になってください。ロジスティクスは、組織内に分散化された各業務を結びつける役割を果たします。例えば、技術部門の目的が、新たな技術の開発だとしても、それは企業が利益を出すという目的に対する手段に過ぎません。目的一手段を結びつけることができる役割を、ロジスティクスが担っているという訳です。

最後になりましたが、これまで培った経験や知識を後輩たちに伝えて、優秀な人材を社会に送り出すことが大きな社会貢献であるという考えから、母校

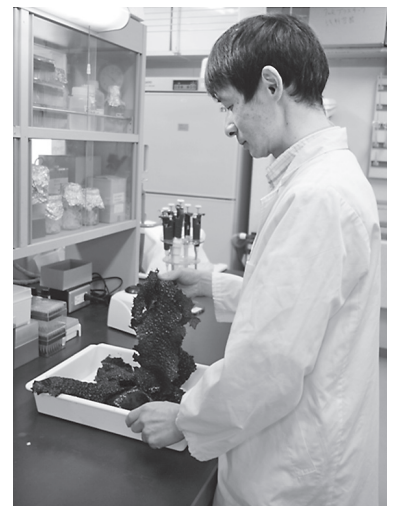
へ転職をしました。至らぬ点が多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

## 今春の花粉症とアレルギーを抑制する海藻ポリフェノール

食品科学科 准教授 杉浦義正

今春の4月3日、岸田文雄首相は花粉症について「もはや日本の社会問題と言っていいような問題だ」と発言しました(日本経済新聞, 2023年4月3日付)。これは、今シーズンのスギ花粉の飛散量が過去10年間で最多であることが環境省の調査で予想され、実際の花粉症シーズンでは例年よりも花粉症患者の増加や重篤化が顕在化したことによります。その環境省の調査(2022年度スギ雄花花芽調査の結果について, 2022年12月26日付)では、2022年のスギ雄花花芽数(個/m<sup>2</sup>) (すなわち2023年の年明けのスギ花粉量)が過去10年間(2012~2021年)で最大になる地域が多く、スギ花粉飛散量の大幅な増加が予測されました。具体的には、東北(福島)、関東・甲信越(東京, 神奈川, 新潟)、北陸(石川, 富山)、関西(京都, 兵庫)、中国(岡山, 広島, 鳥取)、九州(福岡)において過去10年で最大となり、その他ほとんどの地域でも平年値を上回りました。今シーズンは、花粉症患者にとって特に憂鬱なシーズンだったかと思います。また、2019年の全国疫学調査では、花粉症の有病率は19.6%(1998年)から42.5%(2019年)へと約20年間で倍以上に増加したことが分かりました(日耳鼻会報, 123(6), 485, 2020)。

このような社会的背景から、私どもは、花粉症等のアレルギー症状を予防・抑制する水産物やその含有成分の研究に取組み、海藻(サガラメやツルアラメなどの褐藻類)に含まれるポリフェノールに明確な抗アレルギー作用を見出しました(Nat Prod Commun., 16(12), 1934578X211060924, 2021)。また、島根県西ノ島町産ツルアラメの乾燥粉末を使用し、花粉症等アレルギーの予防・緩和を訴求したサプリメントが2021年1月に発売されました(日水誌, 87(3), 295, 2021)。これら研究成果や商品化について、私ども機構よりプレスリリースを行いました(みなと新聞, 2021年8月27日付)。最近では、花粉症モデルマウスに対する緩和作用の論文が公開されました(Biosci Biotechnol Biochem., 87(6), 649, 2023)。以上の成果を含め、今後も展示会等で水産物の有用性について普及活動を続けてまいります。



## 本校で再び始まったウナギ研究

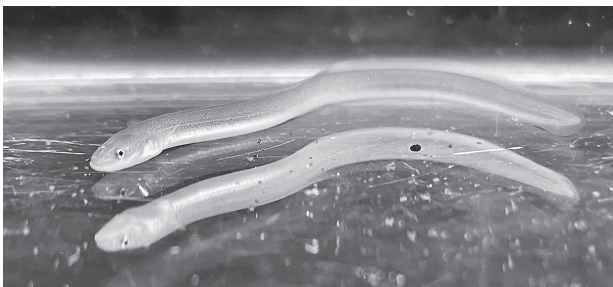
生物生産学科 講師 南 條 楠 土

生物生産学科の沿岸生態系保全研究室では、河口域などに生息する魚類や無脊椎動物の基礎的な生態の研究に取り組んでおり、日頃からフィールドに出て生き物の観察や採集を行っています。正直、これまでの研究対象はマイナーな種が多かったのですが、このたび長崎大学と水産資源研究所と共同で、ニホンウナギの稚魚の生残に関する研究に取り組むことになりました。

一般に、魚類は仔魚・稚魚期に天敵に捕食されるリスクが高く、この時期の生残率がその種の資源量に大きなインパクトを与えます。ウナギの場合、海から河川に侵入した後、シラスウナギ、クロコ、黄ウナギ、銀ウナギと成長していきますが、特にサイズの小さな時期に捕食リスクが高いと考えられます。そこで、この時期のウナギ稚魚はどのように捕食者から身を守っているのかを河床構造に着目した実験で調べました。河床構造である礫地と砂地を再現した水槽実験を実施したところ、ウナギ稚魚（クロコ）は昼夜条件を問わずに砂区よりも礫区を利用することがわかりました。次に、ウナギ稚魚の捕食リスクと基質の関係を調べてみると、ウナギ稚魚の生残率は昼夜ともに礫地で高く、捕食者であるテナガエビによる攻撃回数は礫地で減少することがわかりました。これにより、ウナギ稚魚は砂地よりも礫地を好み、その主な理由は天敵からの攻撃を避けるためであると考えられます。

ウナギが礫地のような複雑な場所を好む傾向は、ウナギ伝統漁で知られる石倉カゴを用いた研究からも報告されています。これは昨年本校に着任された大戸教員による九州大学との共同研究の成果です。河川に設置した石倉カゴを構成する浮石の大きさを変化させると、小型の黄ウナギは小さい石、大型の銀ウナギは大きい石の間隙をそれぞれ好んで利用することがわかりました。これらを踏まえると、近年減少しているウナギ資源を回復させていくには、大小さまざまな礫石が共存するような、環境不均一性の高いハビタットを保全もしくは造成し、本種の生残率を高い水準で維持することが重要であると考えられます。

本校では、古くは1930年代より松井 魁先生や高井 徹先生がウナギの生態研究に精力的に取り組んでおられました。その後、日本国内の様々な研究者の努力により、現在ではウナギの生態についてそ



の多くが解明されつつあります。本校にありながらウナギ研究初心者の当研究室ですが、今後も教員と学生が力を合わせてウナギ研究にチャレンジしていきたいと思っています。

## 着任のご挨拶

耕洋丸次席三等航海士 檀 野 裕 希

皆様、こんにちは。令和5年4月より耕洋丸次席三等航海士に着任しました、檀野裕希と申します。初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は兵庫県神戸市出身で幼い頃より船や海が身近にある環境で育ち、いつしか航海士という仕事に憧れを持つようになり本校への入学を決めました。本学で学ぶ中で水産系調査船への興味が強くなり当機構へ就職しました。その後、令和5年3月に本校専攻科船舶運航課程を修了し、今に至ります。



私自身、耕洋丸への配属が決まった際に、卒業したばかりで練習船教官として学生指導が務まるか不安でした。ですが、実際に4月から新米航海士として働いてみて、学生の時にここが足りなかったと思う点が様々見えてきました。そういったことを踏まえて、学生が近い将来、実際に航海士として働くのに困らないように、今年専攻科を卒業した年齢の一番近い航海士の私だからこそ教えられることを指導していこうと決めました。また、本船では船乗りを養成する学科以外の乗船もあります。そういった学生にもこの乗船実習が将来何かの糧になるように、学生の好奇心や探求心に親身になって応えられる指導を心がけております。

現在、練習船では学生の実習と兼ねて調査航海が行われています。トロールなどの網を曳く調査やCTDを使用した定点保持などの操船を任せていただき、まだまだ自身の実力不足を痛感する日々です。私が調査船を志望した理由として調査操船で魅了できる航海士になりたいという目標があります。目標達成のために、これから多くの経験を積み、学んでいきたいと考えています。

私が学生時代にご指導頂いた教官の方々は様々な経験をされ知識が豊富で、人間として尊敬できる方ばかりでした。私自身まだまだ未熟ですが、少しでも早く私も学生にそのように思ってもらえるように、指導しながら私自身も学生と共に学び成長できればと思います。

水産大学校練習船の実習は、より少人数で間近で観ながら、実践的にいえることが魅力であると考えています。水産大学校では、これらの実習を通して社会で即戦力となる人材を毎年輩出し、様々な分野でご活躍されている方々が大勢おられます。これからも多くの優秀な人材を輩出できるように、練習船教官として微力ながら貢献していきたいです。

## 在校生の声

### コロナ禍での生活と実習の変化

水産流通経営学科3年 山本晴己

本校に入学して2年が経ち、水産大学校での生活も残り半分となりました。入学後の1年目ではコロナ禍の影響で遠隔の授業が多くサークル活動も行われていなかったため、想像していた大学の生活を送ることが難しく、この先の大学生活に不安を覚えました。しかし1年目の後半から徐々にコロナによる規制が解除され、2年目には対面での授業やサークル活動、乗船実習などが再開し、同じ学科の人や違う学科の人、先輩方、先生方との交流が増え充実した学校生活を送ることができるようになりました。

2年目に行われた水産経済・流通調査では実際に下関漁港まで出向き下関漁港地方卸売市場としての役割やブランド化の取り組み、今の下関の漁業の問題点などのお話を聞くことができました。現在の水産業は盛り上がりがなく魚価の低迷や漁獲量の規制・減少などにより漁業者含め水産業に関わる者が苦しいのが現状です。その中でも漁業効率を上げる取り組みや若手の育成などを行い、現状をよりよくしようとする努力と姿勢は私の印象に強く残りました。

大学生活も3年目に入り就職活動について考えていかなければならない時期だからこそここれまでの2年間に学んだ内容や体験を生かして悔いのない選択と学園生活を送れるように今できることを精一杯取り組んでいきたいと思えます。

### 未来への航海

海洋生産管理学科1年 山口虎太郎

水産大学校に入学して早いもので約3か月が過ぎました。入学当初は友達作りや、勉強についていけるかとても不安に感じることもありましたが、今となってはここでの生活にも慣れ、全国各地から集まった仲間と共に勉学に励んでいます。

私は幼い頃から海が好きであり、海の上で活躍することのできる航海士に強い憧れを抱いていました。そこで、高校は地元の水産高校に進学し海や船に関する勉強や、様々な実習を行ってきました。私が所属する海洋生産管理学科では、7月に海技実習があり、2年次には早くも乗船実習があります。現在は、共通教育科目を中心に学習を進めていますが、航海士になるという目標を達成するために早期から海技士資格の取得や英語の学習を進めていきたいと考えております。また、クラブ活動では高校に引き続き端艇部に入部し、海上での活動を通じて集団行動を行う上で必要となる協調性や技術の習得に励んでおります。

大学生活は、自分が想像していたよりとても楽しく充実しているように感じています。この吉見の地

で出会った仲間達や先生方、両親へ感謝するとともに将来立派な航海士となり恩返しできるように日々精進し、未来への航海に挑戦していきたいと考えています。

### 機関士を夢に見て

海洋機械工学科2年 三上多恵

海に憧れ、機関士になる為にこの地へ来てから早2年になりました。2年生に進級し、寮生活にも慣れ、新しい専門科目が沢山始まりました。一年生の間は実習が少なかった為、実習や製図の授業の時は、ようやく機関科らしくなってきたなとしみじみ感じ、立派な機関士を目指そうという意識も芽生え始めてきています。

今年はコロナも落ち着き、部活動が再開し友人、先輩方との交流の機会が増え、世界が広がり始め、毎日が充実し、楽しいです。週末のアルバイトのない日は採集や、一人旅に行くことがとても楽しみで、それが平日の活力になります。初めて行く場所をひたすら歩く時間や、海に入り生き物を探している瞬間、ふと空を見上げると都会とは全く違う世界に自分が今身を置いているということを改めて感じこの環境への感謝の気持ちが湧き上がります。

この場所にいることのできる時間は限られています。あつという間に過ぎてしまうであろうこの大学時代を大切にしたいです。一年生の間は乗船の機会がなかったので、今年は初めて学校の船に乗ります。10月から一週間の航海があり今からとても待ち遠しいです。

座学で学んだことを実習でも活かせるよう、そしていつか立派な機関士になれるようにこれからも勉強に動きたいと思います。

### 洋上鮮度管理実習

食品科学科3年 玉田夏梨

私は5月に耕洋丸に乗り、1週間の洋上鮮度管理実習に参加しました。その実習では、トロール漁で獲れた漁獲物の選別や鮮度管理、加工食品としての干物等の製造を行いました。

トロール漁で獲れた魚は種類や大きさ、漁獲量が異なり、網を引き上げるまで何がどれくらい漁獲できたか分からないため、自然を相手に漁を行うことの難しさを実感しました。私は実習が始まるまで魚を捌いた経験がなかったため、班員や船員の方に教えてもらいながら魚を捌きました。最初は一人で捌くことができなかつたのですが、何匹もの魚を扱ううちに捌き方を覚え、一人で魚を処理できるようになりました。

乗船前は、1週間も船の上で過ごすのは長くて辛いのでは、と思っていました。しかし、普段の授業では学ぶことができない船の運航に関わることや、

漁獲されたばかりの魚を用いて加工を行うなどの実践的な学びが多く、あっという間に実習を終えることができました。コロナ禍の影響もあって実習が始まるまでは同じ学科の人と関わる機会が少なかったのですが、1週間船の上で共に過ごして共同作業を行ったため、同じ学科の人と交流を深める良い機会になったと思います。

## 水産大学校に入学して

生物生産学科1年 松村光聖

私が水産大学校に入学して早くも2ヶ月が経過し、初めての一人暮らしにもだんだん慣れてきました。入学当初は全員初めて会う人で「人間関係は上手くいくのか」や「勉強についていけるのか」など不安なこともたくさんありましたが、いざ入学すると面白い友達がたくさんでき、勉強も分からないところを互いに教え合っているので不安もなくなり、今では毎日楽しく過ごしています。

しかし大学生として楽しいことだけをするのではなく、やるべきこともしていかなくてはなりません。初めての一人暮らしで怠けていても以前のように注意してくれる人がおらず「自分で自分のことを自制しなくてはいけない」と強く感じました。大学生は良くも悪くも学校以外の時間が多くあり、だから過ごすこともできれば専らバイトや部活に専念することもできます。私はそんな時間を勉強や部活に費やそうと思います。水産大学校という最高の学びの場を生かし、私の勉強したかった水産に関する勉強や英語などの苦手な科目を積極的に学びたいです。また部活動は友達と集まり一から作ろうとしており、わからないことや今まで考えもしなかったよ

うな困難がたくさんありますが、全員で協力しながら最高の部活を作り上げたいと思います。

水産大学校という最高の環境に居られることに感謝をしながら「研究者になる」という夢に向かって進みます。

## 研究科に進学して

水産学研究科1年 水産技術管理学専攻  
山本哲太

私は海洋生産管理学科を卒業後、水産技術管理学専攻の漁業技術管理学専攻分野に進学し、現在スルメイカの不漁の原因を探るべく、孵化時期の変化を中心に研究を行っています。

水産大学校へ入学した頃、私は漠然と海の生き物に関する勉強がしたいと思っていました。その後、水産重要種に興味を持ち、対象魚種の生態や資源管理手法の勉強を進んで行うようになりました。4年次の卒業論文では、実際に資源管理で使われている調査サンプルからデータを取るところからはじめ、資源管理には多くの人がかかっていることを知りました。そして、自分も資源管理に携わるに人間になりたいと思い、自身の知識や経験をより深めようと研究科への進学を決意しました。

研究科では2年の研究期間で修士論文を完成させることを目的に研究を進めます。1年次には講義がありますが、自分の専攻以外の講義を受講できるため、水産に関する幅広い知識を得ることができます。学部頃よりも研究の自由度が広がる分、主体性や計画性が求められますが、2年という短い期間で研究成果が残せるよう、これから日々精進していきたいと思っています。

## クラブ紹介

### 伝統ある「朝の課業」

生物生産学科(令和5年3月卒業)

中島嶺斗

生物生産学科水産動物学研究室では、毎朝8時10分から、二学科共用実験棟玄関から生物生産学科側の1階の廊下、および研究室内の清掃を行っています。この清掃活動は実験棟が竣工し運用を始めて以来、30年以上にわたって先輩から後輩へと引き継がれ、現在に至ります。

研究室周辺の建物の公共スペースをきれいに保つこと、朝決まった時間に登校して研究室をベースとした生活を開始することが目的です。大学生の生活リズムは乱れがちですが、社会人になると一般的には朝8時30分から仕事を開始することを求められ、4年生の就職活動でも同じことが言えます。大学3年生後期の研究室配属以降、研究室における様々な活動に参加しながら、就活や卒論研究に備え規則正しい生活リズムを身につけます。私は、この研究室の清掃活動によって朝の生活習慣が身につき、就活

や研究生活などで早朝から活動する場合でも苦に感じることはありませんでした。さらに、清掃を行うことで、自分たちが勉強や研究を行う環境を快適にすることができ、より集中して取り組むことが可能になります。

清掃の時間は15分から20分程度と決して長い時間行われているわけではありません。毎日短時間ではありますが、研究室の「朝の課業」として30年以上にわたって代々引き継がれてきたことが認められ、このたび表彰をしていただきました。永く継続してきたことが認められるとともに、私もその一端を担うことができ、とても光栄に思います。この「朝の課業」が研究室の伝統として、これからも途切れることなく後輩達に受け継がれていくことを期待しています。

# 学生部だより

## 令和4年度における就職対策と進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 村瀬 昇

本校では学内に就職対策検討委員会を設置して、学生課就職支援室の就職統括役を中心に学生への就職支援を行っています。

就職対策に関する主な活動は、(1) 3年生を主に対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施、(2) 就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催、(3) 就職手引き書「就活支援ブックー就職活動編ー」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導、(4) 企業等の採用情報の把握、(5) 企業研究会・説明会の開催、(6) 就職活動を行う際のキャリアカウンセリング等です。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、令和3年度に引き続き、合同企業説明会をWebで開催し、126社に参加頂きました。また、水産及び関連分野の業界や企業の理解を深めること

を目的として、キャリア教育の一環として実施している企業研究会・説明会を対面で14件実施するとともに、本校の就職支援ツールとして令和3年度に導入したキャリアス UC を活用して学生に情報提供しました。さらに、採用時にWEB面接が導入されている背景から、WEB面接専用のブースを学内に設けるなど環境面でも配慮を続けました。これらの活動の結果、令和4年度卒業・修了者の就職希望者166名(本科110名、専攻科48名、研究科8名)の就職率は97.0%(前年度は97.7%)で、このうち水産関連分野に77.6%(前年度は80.4%)が就職しました。

今年度の本科3年生、専攻科進学予定の4年生や研究科1年生(令和7年3月に卒業・修了予定)が対象となるインターンシップは、大きく制度が変わり、就業体験が重要視されるだけでなく、インターンシップに参加した学生情報を企業側が採用選考活動に使用できるようになります。本校では引き続き、多様な採用に関する情報を収集し、学生の就職活動が円滑に行えるように必要な支援を実施してまいります。

## 令和4年度 卒業・修了者の進路状況

令和5年3月31日現在

本科 専攻科 研究科	修 卒 了 業 者 及 び 数	進 学							就 職 希 望 者 数 ②	就 職										進 路 未 定 者 数	就職率 (%)				
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	専 攻 科 等 学	研 究 生 等	進 学 者 合 計	試 験 準 備 ・ 其 他		水 産 関 連 分 野											内 定 者 合 計 ①	水 産 関 連 分 野 者 就 職 希 望 者 数 ③/②	水 産 関 連 分 野 者 就 職 内 定 者 数 ③/①	全 体 就 職 率 ①/②	
										国 家 公 務 員	地 方 公 務 員	各 種 団 体	養 殖 業 ・ 漁 業	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	供 給 機 材 等	小 計 ③	そ の 他 分 野						
水産流通学 通 科	男	17	0	0	0	0	0	1	16	0	2	4	1	0	2	0	3	12	4	16	0	75.0	75.0	100.0	
	女	5	0	0	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	2	0	0	5	0	5	0	100.0	100.0	100.0	
海洋生産学 管 理 学 科 (9/30卒業1名含む)	男	33	3	1	19	0	0	23	0	10	0	0	0	1	3	0	4	8	0	8	2	80.0	100.0	80.0	
	女	9	1	0	5	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	50.0	50.0	100.0	
海洋機械工 学 科 (9/30卒業1名含む)	男	44	0	4	23	0	1	28	1	15	0	0	0	0	0	0	10	10	3	13	2	66.7	76.9	86.7	
	女	3	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0	
食品科学科	男	33	4	4	0	0	0	8	1	24	0	1	3	0	6	6	0	2	18	6	24	0	75.0	75.0	100.0
	女	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	4	4	0	0	9	1	10	0	90.0	90.0	100.0
生物生産学科	男	25	3	2	0	0	0	5	0	20	1	2	2	0	2	1	3	4	15	5	20	0	75.0	75.0	100.0
	女	7	1	0	0	0	0	1	0	6	1	1	1	0	0	0	2	5	1	6	0	83.3	83.3	100.0	
計	男	32	4	2	0	0	0	6	0	26	2	3	3	0	2	1	3	6	20	6	26	0	76.9	76.9	100.0
	女	152	10	11	42	0	1	64	3	85	1	5	9	1	9	12	3	23	63	18	81	4	74.1	77.8	95.3
専攻科 船舶運航課程	男	34	2	0	6	0	0	8	1	25	3	3	1	0	4	6	0	5	22	3	25	0	88.0	88.0	100.0
	女	186	12	11	48	0	1	72	4	110	4	8	10	1	13	18	3	28	85	21	106	4	77.3	80.2	96.4
専攻科 船舶機関課程	男	21	0	0	0	0	0	0	0	21	3	0	5	0	0	4	1	1	14	7	21	0	66.7	66.7	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0
計	男	23	0	0	0	0	0	0	0	23	4	0	5	0	0	5	1	1	16	7	23	0	69.6	69.6	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0
計	男	25	0	0	0	0	0	0	0	25	2	0	2	1	0	7	4	1	17	8	25	0	68.0	68.0	100.0
	女	44	0	0	0	0	0	0	0	44	5	0	6	1	0	11	5	1	29	15	44	0	65.9	65.9	100.0
計	男	4	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0	1	0	1	4	0	4	0	100.0	100.0	100.0
	女	48	0	0	0	0	0	0	0	48	6	0	7	1	0	12	5	2	33	15	48	0	68.8	68.8	100.0
研究科	男	4	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	3	1	75.0	100.0	75.0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	4	0	4	0	100.0	100.0	100.0
総合計	男	200	10	11	42	0	1	64	3	133	7	6	15	2	9	24	8	24	95	33	128	5	71.4	74.2	96.2
	女	42	2	0	6	0	0	8	1	33	4	4	5	0	4	7	0	6	30	3	33	0	90.9	90.9	100.0
合計	男	242	12	11	48	0	1	72	4	166	11	10	20	2	13	31	8	30	125	36	161	5	75.3	77.6	97.0

### 【就職先の分類】

#### 水産関連分野

各種団体：水産に関する団体(漁業、流通、船舶等関係団体)

漁業・養殖業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者

水産加工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者

その他：水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

水産流通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者

調査開発等：海洋水産関連の調査会社

資機材供給等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者

### 令和4年度卒業生進学・就職状況一覧表

令和5年3月31日現在

<b>◎進学(大学院等)</b> 鹿児島大学大学院 金沢大学大学院 九州大学大学院 高知大学大学院 東京海洋大学大学院 長崎大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 北海道大学大学院 三重大学大学院 宮崎大学大学院	<b>各種団体</b> (国研) 海洋研究開発機構 (一財) 化学物質評価研究機構 (国研) 水産研究・教育機構(船舶職員) (国研) 水産研究・教育機構(研究職) 全国合同漁業共済組合山口県事務所 (一社) 大日本水産会 垂水市漁業協同組合 東京海洋大学 徳島県漁業協同組合連合会 (一社) 日本海事検定協会 (一財) 日本食品検査 (一財) 日本食品分析センター 宗像漁業協同組合 山口県漁業協同組合 山口県農業協同組合	グリーンブルー(株) ケイラインローバルシップマネージメント(株) 五栄土木(株) (株)国際電気セミコンダクター サービス 五洋建設(株) サミット(株) (株)サン・ダイコー (株)サンヨー堂 JRCS(株) ジェイエイ北九州くみあい飼料(株) 四国システム開発(株) (株)シモセン 商船港運(株) 商船三井客船(株) 商船三井フェリー(株) (株)新来島どっく 新日本海フェリー(株) (株)水研 (株)セコマ 全日本食品(株) 全農チキンフーズ(株) 第一設備工業(株) 大東魚類(株) ダイハツディーゼル(株) タイハイ(株) 大洋産業貿易(株) 太平洋フェリー(株) 大洋エーアンドエフ(株) (株)多度津造船 チロルチョコ(株) (株)チャーム (株)ちゅうせき (株)長府製作所 常石造船(株) 鶴見サンマリン(株) 東亜建設工業(株) トウショク(株) 東都水産(株)	東洋冷蔵(株) 内海造船(株) (株)名村造船所 新潟造船(株) (株)ニシヨウ産業 (株)西日本科学技術研究所 (株)西原商会 日研トータルソーシング(株) 日本ハム食品(株) 日本郵船(株) パローホールディングス(株) 早駒運輸(株) 林兼産業(株) 阪九フェリー(株) (株)BMLフード・サイエンス (株)日阪製作所 フィード・ワン(株) (株)フジデリカ・クオリティ (株)ベネフィットジャパン (株)ホテイフーズコーポレーション マリンフーズ(株) (株)マルタイ (株)名門大洋フェリー (株)モリタ屋 山崎製パン(株) (株)ヤマリア (株)ヤヨイサンフーズ (株)ヨシムラ (株)ライフコーポレーション 理研ビタミン(株) (株)リゾーム (株)六甲船舶 郵船クルーズ(株) 郵船コーディアルサービス(株) 郵船ロジスティクス(株) 自営業(漁業)
<b>◎就職</b> <b>官公庁</b> 水産庁(一般職) 水産庁(船舶職員) 財務省門司税関 国土交通省九州運輸局下関海事事務所 気象庁(海洋気象観測船乗組員) 愛知県警 千葉県 福井県 山口県 大分県 長崎県 綾部市 北九州市 広島市	<b>民間企業</b> (株)あきんどスシロー 旭酒造(株) 味日本(株) アニコム損害保険(株) アピ(株) 飯野海運(株) 出光タンカー(株) (株)伊藤園 上野トランステック(株) (株)うおいち (株)宇部ケイキ (株)エコー NS ユナイテッド海運(株) ENEOS オーシャン(株) カクサン食品(株) 鹿児島船舶(株) GAMAKATSU・PET・LTD かめや釣具(株) 川崎汽船(株) 関門港湾建設(株) 共栄マリン(株)	五十音順	

### 令和5年度入試状況

本校の令和5年度入試状況をお知らせします。昨年11月に実施された学校推薦型選抜には、全学科で136名(前年度120名)の応募があり、また、今年2月に実施された一般選抜には全学科で541名(前年度478名)の応募があり、推薦と一般の合計で677名の志願者数となりました。

学科別応募状況は、水産流通経営学科40名(募集人員20名に対する倍率2.0倍)、海洋生産管理学科153名(募集人員45名に対する倍率3.4倍)、海洋機械工学科82名(募集人員45名に対する倍率1.8倍)、食品科学科119名(募集人員45名に対する倍率2.6倍)、生物生産学科283名(募集人員30名に対する倍率9.4倍)でした。全体では677名(募集

人員185名に対する倍率3.7倍)、前年度(令和4年度)入試の志願者数598名(3.2倍)から79名の増加となりました。

令和4年度の西日本を中心とした高校訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、ほとんどの高校を直接訪問し、本校の説明などを行うことができました。また、昨年度のオープンキャンパスは、8月20日と21日に、参加者数を限定し、感染対策を徹底した上で3年ぶりに校内で実施しました。たいへん盛況で本校の魅力を十分に知っていただいたと実感できました。

今年度も引き続き、受験生確保のための活動として高校訪問やオープンキャンパスなどへ積極的に取り組むことで、水産学を学ぶ意欲の高い、多くの高校生に志願して頂けるよう努力して参ります。